

公的年金シミュレーターについて

目次

- 1 公的年金シミュレーターの開発経緯と概要
- 2 公的年金シミュレーターのこれまでの議論の状況
- 3 次期公的年金シミュレーターの開発方針と新たな機能

1 公的年金シミュレーターの開発経緯と概要

年金広報に関する年金部会における「議論の整理」(令和元年12月)

年金広報のあり方

- ・働き方の多様化、高齢期の長期化が進む中、老後の所得保障や退職後の生活設計の情報に対するニーズは高まっている。年金制度については、広報媒体の多様化や世代の特性も踏まえつつ、様々な媒体を適切に用いた周知を行いながら、正しい情報を正確に伝え、関係者の理解を得ていくことが重要である。
- ・年金に関して様々なウェブサイトがあることで、かえって知りたい情報にアクセスすることが難しいとの指摘もあったことから、2019(平成31)年4月、厚生労働省ホームページ上に、ライフイベントごとに必要な年金情報が整理されたサイトである「年金ポータル」が開設されたところであり、引き続き広報の充実・強化に取り組むとともに、戦略的な広報展開を検討すべきである。

生涯を通じた年金教育

- ・個別の制度の仕組みや個々人の状況の情報提供にとどまらず、誰もが人生を歩んでいく上で避けることのできないリスク(年金制度の場合は稼得能力の喪失)に対して、社会全体で連帯して備える社会保障制度という大きな枠組みの中で、貯蓄ではなく保険の考え方を基本に構築されている年金制度の意義や位置付けを理解してもらうことも重要であり、子どもの頃から生涯を通じた年金教育の取組を進める必要がある。

被用者保険の適用拡大

- ・短時間労働者に対する適用拡大を進めるに当たっては、被用者保険加入によるメリットへの理解を十分に広めながら取り組むことが望まれる。
- ・企業が従業員への説明に使えるよう、または労働者本人が自ら被用者保険加入のメリットを実感することができるとともに、自らの適用状況が適切であるかを確認できるよう、非専門家でも理解しやすい説明ツールを整備することも必要である。

年金の見える化

- ・高齢期の生活は多様であり、それぞれの方が望ましいと考える生活水準や、働き方の希望、収入・資産の状況なども様々である。公的年金制度に関する関心内容として「自分が受け取れる年金はどのくらいか」が最も高くなっており、制度自体の広報・周知に加えて、個々人の老後の公的年金の支給額等がいくらとなるか若い頃から見通せるようにすることが、老後生活や年金に対する不安を軽減するためにも重要である。次期制度改正で、高齢者が自身の就業状況等に合わせて年金の受給開始時期の選択肢を60～75歳までに拡大することも踏まえれば、その必要性は一層高まる。こうした観点から、これまでも「ねんきんネット」による年金見込額試算の充実などが取り組まれているが、さらに、公的年金、私的年金を通じて、個々人の現在の状況と将来の見通しを全体として「見える化」し、老後の生活設計をより具体的にイメージできるようにするための仕組みを検討すべきである。

現行の公的年金シミュレーターの概要

- 公的年金シミュレーターは、令和2年改正年金法を分かりやすく周知すること、働き方や暮らし方の変化に伴う年金額の変化を「見える化」することを目的として、令和4年4月から運用を開始した。
- ねんきん定期便の二次元コードを読み取るなどして将来の年金受給見込額を簡単に試算でき、働き方や暮らし方の変化に応じた年金額の変化も試算できる。令和5年4月に年金受給開始時点での税や保険料の大まかなイメージを表示する機能を追加し、同年7月には民間サービスとの連携に向けたプログラムを公開、令和6年1月には在職定時改定の試算機能を追加した。
- 公的年金シミュレーターを利用して、実際に試算を行った回数は令和6年9月10日時点で500万回超。

■ 公的年金シミュレーターの特徴

【簡単でスムーズな操作性】

- ・ ID・パスワードは不要で、すぐに試算を始めることができる。
- ・ 「ねんきん定期便」の二次元コードを利用すれば、よりスムーズに入力が可能。

【グラフを表示しながら試算できる】

- ・ スライダーを動かすと年金額の変化が一目で分かる。

【データ管理も安心・安全】

- ・ 個人情報は記録、保存されない。

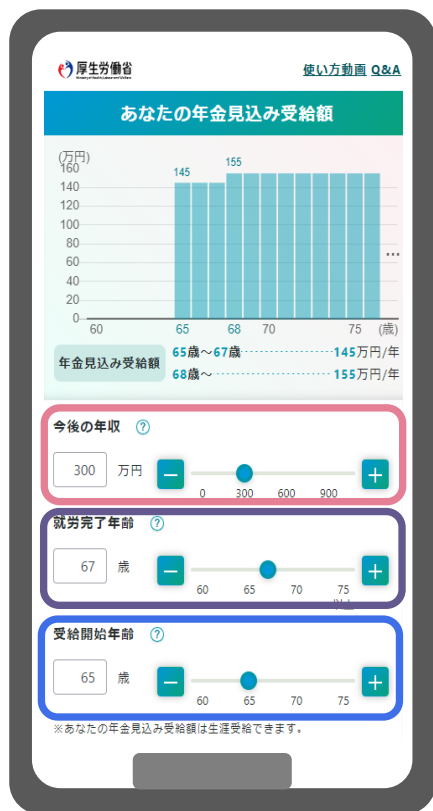


■ 公的年金シミュレーターの使い方



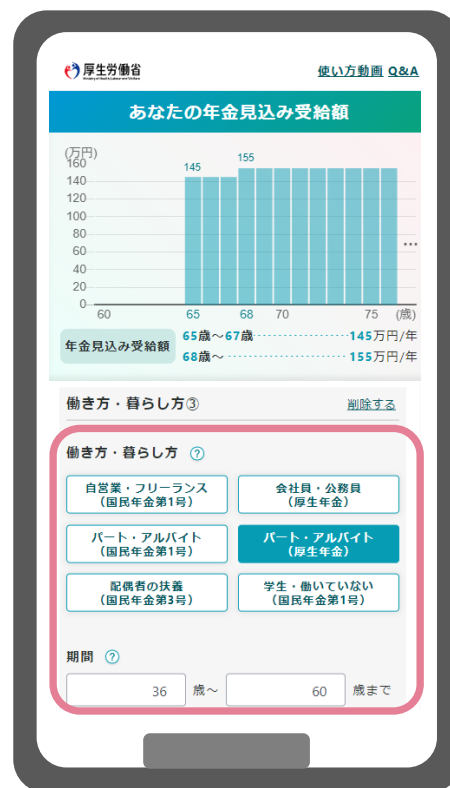
公的年金シミュレーターによる将来の年金見込み受給額試算について

「公的年金シミュレーター」は、将来受け取る年金受給見込額を固定して表示するだけではなく、個々人の働き方暮らし方の変化による多様なライフコースに応じた様々なパターンの年金受給見込額を簡単な入力で試算・表示することが可能。



年金見込み受給額試算の結果についてはグラフ及び数字で表現され、グラフ直下にあるスライダーを動かすと年金額がリアルタイムに変化し、一目でわかる。

将来受け取る年金見込み受給額を決定する3つの重要要素である「今後の年収」、「就労完了年齢」、「受給開始年齢」を変更することにより、将来受け取る年金額の増減を簡単に試算することが可能。



個々人の働き方・暮らし方による多様なライフコースに対応するため、働き方・暮らし方、働く期間、年収を直接入力し変更することにより、年金見込み受給額を試算することが可能。

(注) 公的年金シミュレーターは、年金額を簡易に試算することを目的としており、実際の年金額とは必ずしも一致しません。より正確な年金受給見込額を確認する場合には、日本年金機構の「ねんきんネット」の活用をご検討ください。

公的年金シミュレーターの活用促進の取組

- 令和6年4月に更改した社会保険適用拡大特設サイトや適用拡大に関する広報物に、公的年金シミュレーターの二次元バーコードや利用案内を掲載し、適用拡大の対象者などが社会保険に加入したときの年金額の変化を試算できるようにしている。
- 令和6年5月に公表した中高生向けの年金教材で公的年金シミュレーターを取り上げ、学生が働き方などの変化に伴う年金額の変化を試算しながら、年金の仕組みを理解できるようにしている。

【社会保険の適用拡大】

社会保険適用拡大特設サイトにおける 公的年金シミュレーターの利用案内

社会保険加入による年金額シミュレーション

ねんきん定期便をお持ちの場合

Aさん 35歳（女性） 27歳から夫の扶養で就労 今後（35歳以降）、社会保険に加入して働くことを検討中

STEP 1 例えば、Aさんが27歳から59歳まで夫の扶養内で働いている前提で試算する場合

STEP 2 「ねんきん定期便」の二次元コードからシミュレーターにアクセス

STEP 3 生年月日を入力

STEP 4 二次元コードを読み込んだ場合、現在の加入条件が60歳になる直前まで継続すると仮定して試算した現時点の見込み額が表示されます

STEP 5 35歳以降社会保険に加入後の条件を入力するため、働き方・暮らし方を追加

STEP 6 厚生年金を選択し、年齢を35歳から59歳まで想定する年収を入力

人事労務管理者向け手引きにおける 公的年金シミュレーターの利用周知

2-1 従業員への説明内容のポイント

▶「社会保険加入を考える3ステップ(2ページ)」チラシの説明内容・ポイント

「社会保険加入を考える3ステップ」チラシを活用して、社会保険加入のメリットをより従業員に理解してもらうために、社会保険に加入した場合に、将来的に受け取れる年金額について、試算してみるよう従業員へ促してみましょう。その際に、個人の状況に応じた年金額を試算可能な「公的年金シミュレーター」を紹介すると効果的です。「ねんきん定期便」をお持ちの方は、二次元コードを読み込むだけで簡単に自分の情報を基にした試算が可能となるため、「ねんきん定期便」を確認してもらうよう従業員の方へご案内ください。

ねんきん定期便をお持ちの場合

「ねんきん定期便」の二次元コードを読み込んでください。

従業員にご自身の年金額に興味を持ってもらえるよう、スマホで使える「公的年金シミュレーター」ツールの活用を紹介してみてください。

公的年金シミュレーターの具体的な操作方法を動画で視聴したい方は、二次元コードを読み込むよう案内してください。

「ねんきん定期便」をなくしてしまった方やお待ちでない方がいらした場合は、生年月日や過去の働き方・暮らし方の情報をいただくことで、試算が可能です。

情報の入力方法等については、二次元コードから説明動画につながりますので従業員へご案内ください。

公的年金シミュレーター 使い方HP http://www.mhlw.go.jp/stf/koudai/kenkin_simulator.html

POINT チラシの記載事項に関連した従業員からの質問に回答できるよう、「社会保険加入に関するQ&A集」を相談のときなどに準備しておくことをおすすめします。また、従業員に配布したり、社内で見守りできる掲示物などに掲載したりすることも有効です。

【中高生向けの年金教材】

2 将来受け取れる年金額ってどれくらい？

将来どのくらいの年金額がもらえるの？
予想しながら動画を見よう。

ワーク ワーク 2-2 公的年金シミュレーターを使ってみよう！

公的年金シミュレーターを使って、将来もらえる年金額をイメージしよう。

1. 生年月日を入力する。

2. 働き方・暮らし方を選択し、加入期間を入力する。
(付加納付の有無の欄が出てきた場合は、今回は「無」を選択する。) 全部できたら「試算する」ボタンを押す。

3. 年金額の試算結果が表示される。

Aさんのパターン

20歳からフリーランスとして働き始め、59歳まで国民年金に加入したケース。

1 受給開始年齢を65歳にしたとき、1年にいくらずつ受給できる？

2 Aさんは受給開始年齢を70歳に遅らせた。このとき、70〜74歳の5年間で受け取れる金額はいくら？

公的年金シミュレーターの活用促進の取組（金融経済教育との連携）

- 令和6年4月に発足した金融経済教育推進機構（J-FLEC）が8月に公表した標準講義資料で、公的年金制度などの説明に合わせて公的年金シミュレーターとねんきんネットを紹介している。

J-FLEC

3

公的年金の受取額

19

- ご自身の公的年金の受取額を算出してみましょう。『厚生労働省提供の「公的年金シミュレーター」で簡単に試算』できます。
「ねんきん定期便」が手元にあればさらに簡単に算出できます。
- より正確な年金見込額の確認をしたい場合は、『日本年金機構提供の「ねんきんネット」を活用』しましょう。

厚生労働省「公的年金シミュレーター」

https://www.mhlw.go.jp/stf/kouteki_nenkin_simulator.html

日本年金機構「ねんきんネット」

https://www.nenkin.go.jp/n_net/index.html

パソコン、タブレット、スマートフォン
からも利用可能です。



© 2024 J-FLEC All Rights Reserved.

2 公的年金シミュレーターのこれまでの議論の状況

これまでの年金部会における主なご意見（公的年金シミュレーター）

【年金制度改正】

- ・ 年金制度改正に合わせて、その目的に沿った様式に公的年金シミュレーターをバージョンアップしていくべきではないか。
- ・ 公的年金シミュレーターの機能強化やユーザーインターフェースなどを使いやすくする工夫を継続すべきではないか。
- ・ 公的年金シミュレーターの表示に合わせ、現役時代の年収と対比して将来の年金給付額を示してはどうか。

【民間連携】

- ・ 公的年金シミュレーターについて、民間企業のアイデアを活用することで、サービスの利用が広まり、国民の金融リテラシーも向上していくものと考えられることから、民間サービスとの連携を進めていくことが重要ではないか。

【年金教育での利用促進】

- ・ 情報格差や、過度な不安をあおらないために、教育の中で自分の将来の年金受給見込み額を計算する方法を知る方法について公的年金シミュレーターを活用し、若年層がイメージできるようにすることが大事ではないか。

【ライフプランに合わせた利用促進】

- ・ 適用拡大の対象企業に公的年金シミュレーターを使ってもらうことによって年収の壁問題は解決するのではないか。
- ・ 公的年金シミュレーターは、公的年金について自分ごととして捉えて、自分の老後についてどれぐらいの経済的な備えになるのかがわかり、安心を感じてもらえるのではないか。

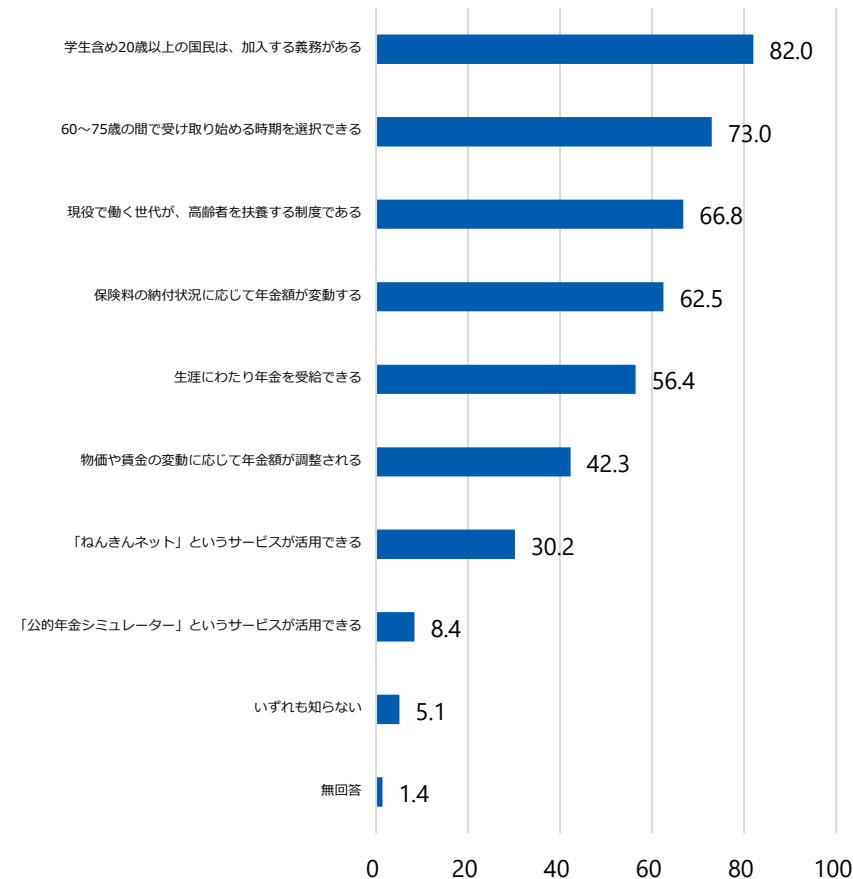
【公的／私的を合わせた制度周知・個人の年金の状況の見える化】

- ・ 日本にも欧州のような年金ダッシュボードを取り入れ、個人が公的と私的どちらの年金の状況も横断的に把握できるようにすべきであるが、コスト面の問題、個人情報漏えいに対してどのようなセキュリティ体制を構築するのかなどの検討が必要ではないか。

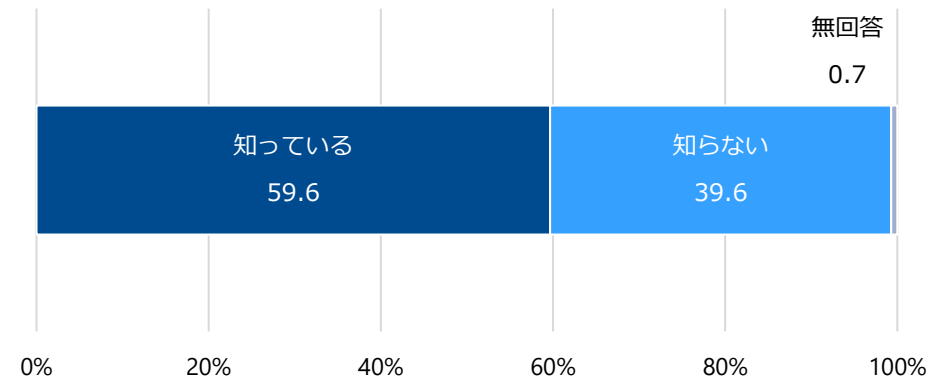
公的年金制度への意識・ニーズについて（令和5年 世論調査）

- 「老齢年金の仕組みや役割についての認識」の問に対して、「学生を含めた20歳以上の国民は、国民年金に加入する義務がある」ことを知っている人は82.0%、「60～75歳までの間で受け取り始める時期を選択できる」ことを知っている人は73.0%であった。
- 障害年金の仕組みがあることを知っている方は59.6%、遺族年金の仕組みがあることを知っている方は77.3%だった。

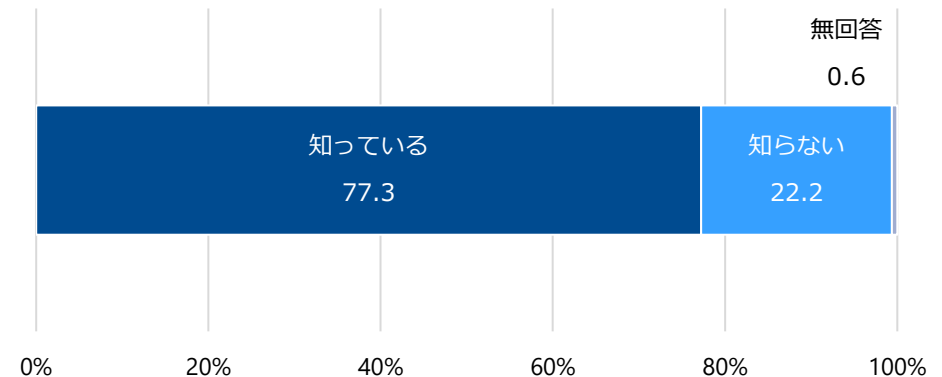
■ 老齢年金の仕組みや役割についての認識（問11）



■ 障害年金の仕組みがあることの認識（問12） (N=2833)

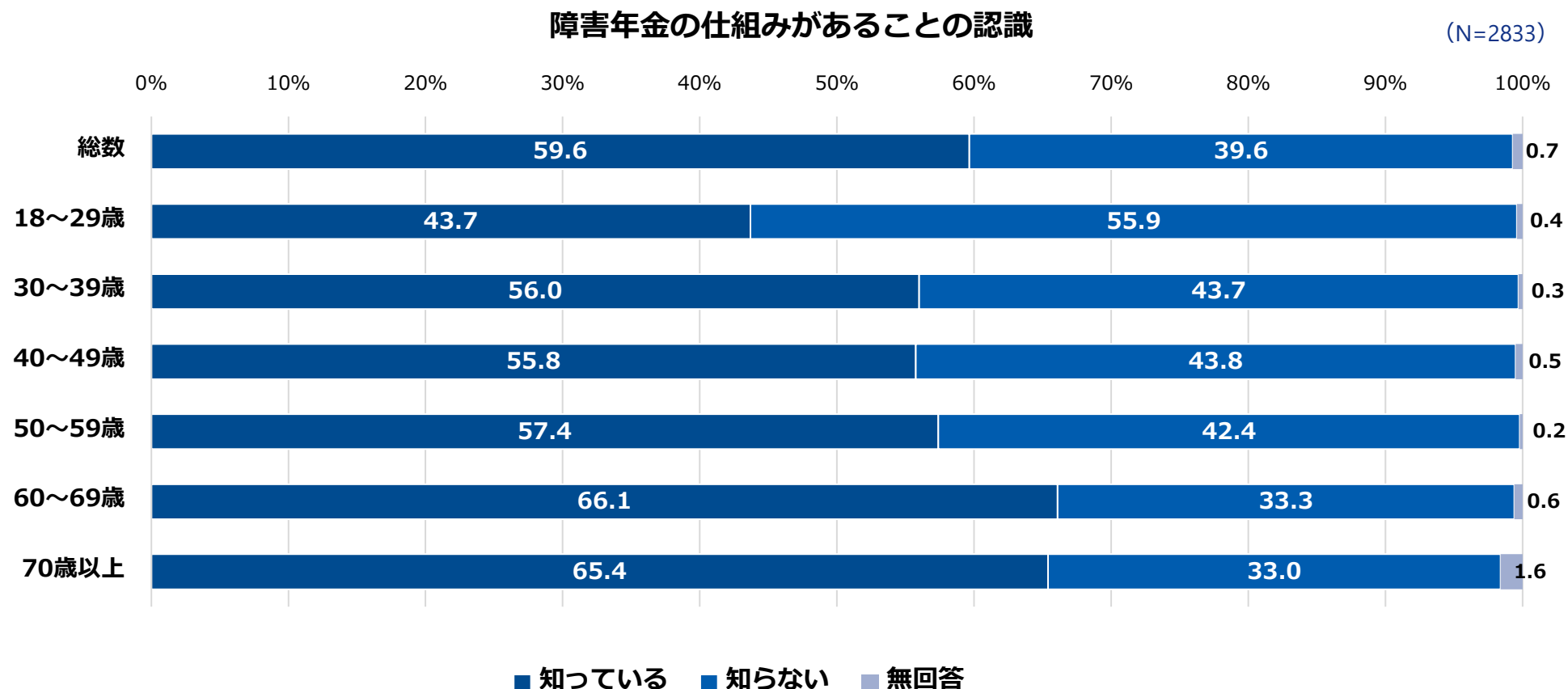


■ 遺族年金の仕組みがあることの認識（問14）



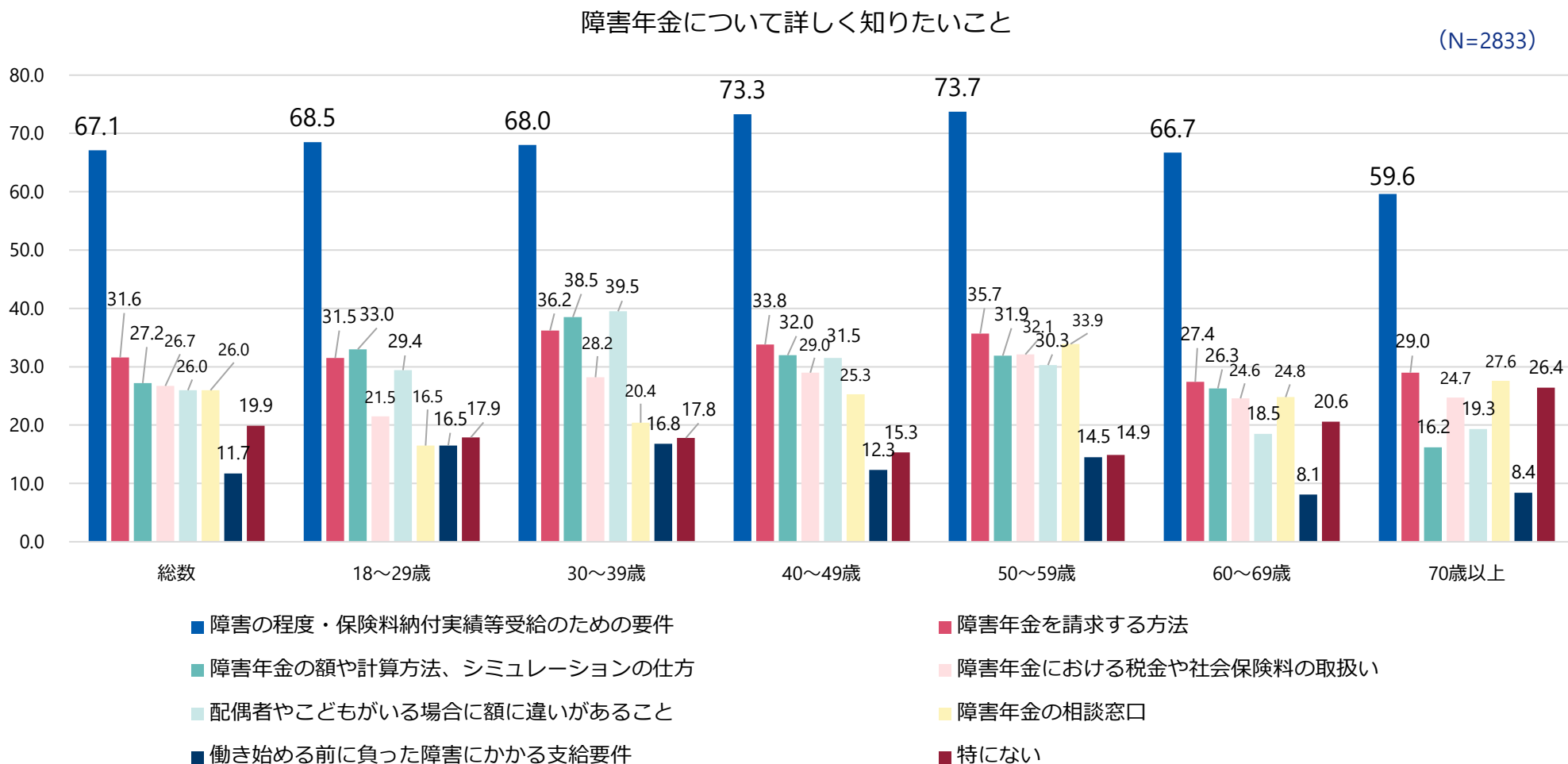
障害年金制度への意識・ニーズについて①（令和5年 世論調査）

○障害年金の仕組みがあることを知っているか聞いたところ、「18～29歳」は43.7%、「30～39歳」は56.0%、「40～49歳」が55.8%、「50～59歳」が57.4%、「60～69歳」が66.1%、「70歳以上」が65.4%だった。特に、20代の方の障害年金の仕組みの認知率が他の世代に比較して低かった。



障害年金制度への意識・ニーズについて②（令和5年 世論調査）

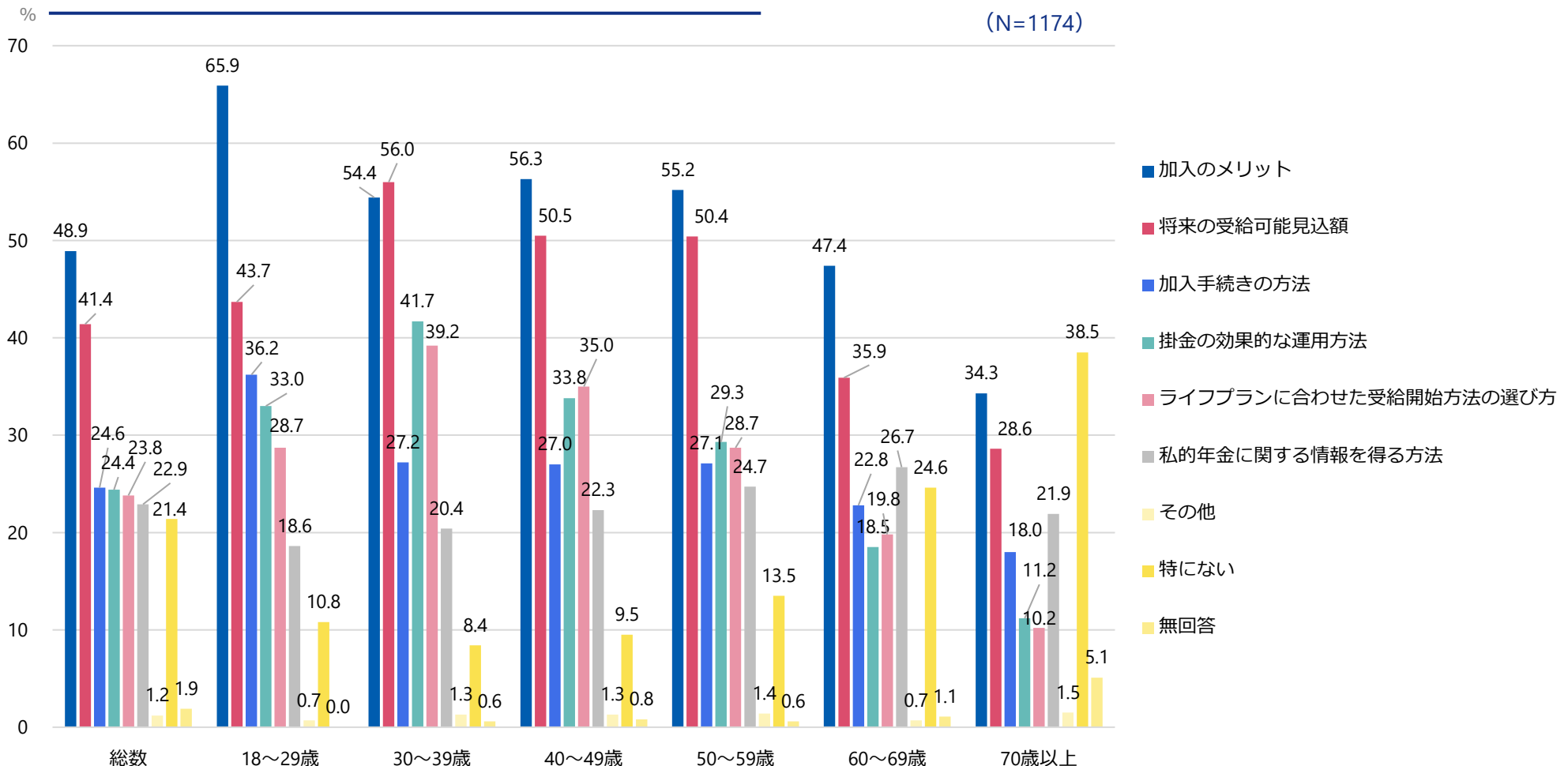
○「障害年金について詳しく知りたいこと」の問いに対し、回答全体で見ると「障害の程度・保険料納付実績等受給のための要件」の割合が67.1%と最も高かった。また、20代から50代の方は「障害年金を請求する方法」、「障害年金の額や計算方法、シミュレーションの仕方」について知りたいとの回答が高かった。



私的年金制度への意識・ニーズについて（令和5年 世論調査）

- 「私的年金制度について、詳しく知りたいこと」の問に対し、回答全体で見ると「加入のメリット」の割合が48.9%と最も高かった。また、特に30代から50代の方は「将来の受給可能見込額」について知りたいとの回答の割合が高かった。

■ 私的年金制度について詳しく知りたいこと（問23）



3 次期公的年金シミュレーターの開発方針と新たな機能

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

次期公的年金シミュレーターの開発方針と新たな機能

令和4年4月から運用している現行の公的年金シミュレーターの保守、運用が令和7年度末で終了することから、年金部会などでのご意見を踏まえ、以下の案により、令和8年4月から新たに運用を開始する予定の「次期公的年金シミュレーター」の開発を進めることとしてはどうか。

次期公的年金シミュレーターの開発方針（案）

- 次期公的年金シミュレーターは、現行の考え方を継承しつつ、
 - 年金の仕組みや制度改正の内容を国民に分かりやすく周知すること
 - 働き方などの変化に伴う年金額の変化を「見える化」し、国民一人一人の生活設計を支援することを目的として運用することとし、そのために必要な機能を装備する。
- 公的年金シミュレーターの利用をさらに促進するため、手軽に利用できる、円滑に操作できる、画面が見やすいといった現行の特徴を維持する。個人情報記録や保存を行わず、IDパスワードを用いないことも現行どおりとする。

次期公的年金シミュレーターの機能（案）

- 老齢年金については、現行の機能を維持する。さらに改善や追加を行うべき機能がないか、検討する。
 - 【老齢年金に関する現行の主な機能】
 - ・ ねんきん定期便の二次元コードを読み取るなどして、将来の老齢年金の受給見込額を簡単に試算する機能
 - ・ 働き方（被保険者種別や収入）の変化、繰上げ受給や繰下げ受給の選択などによる年金受給見込額の変化を試算する機能
 - ・ 在職老齢年金や在職定時改定による年金額の変化を試算する機能、年金にかかる税や社会保険料を試算する機能
- 現行の老齢年金に加えて、障害年金等の試算機能、iDeCoの試算機能を追加する。
- 新たな試算機能の追加にあたっては、障害年金等、iDeCoの基本的な仕組みや特徴を分かりやすく国民に周知するとともに、生活設計に役立つように年金額を「見える化」することを目的として、できる限り簡素で使いやすい設計にする。

次期公的年金シミュレーターの新たな機能を設ける目的

障害年金の試算機能を設ける目的（案）

- 公的年金には老齢年金だけでなく障害年金等^(注)があり、予測できないリスクに備えるための生涯を通じた保険であることについて、若い世代を中心として理解を促す。
- 障害年金については、老齢年金と異なり最低保障機能^(※)があること、一方で、保険料納付などの受給要件を満たす必要があることの理解を促す。
- ※ 障害年金は、一定の支給要件を満たした場合、障害基礎年金（２級）については、保険料納付期間にかかわらず老齢基礎年金満額（４０年加入）と同額が支給され、障害厚生年金については、被保険者期間が３００月（２５年）未満で３００月とみなして年金額が計算される。また、障害が重い場合（１級）には年金額が１．２５倍になる。

（注）遺族年金については、障害年金より制度が複雑なため、利用者のモバイル端末の性能や試算機能の使いやすさ等を踏まえ、どのような試算機能を追加し得るかについて検討する。

iDeCoの試算機能を設ける目的（案）

- 私的年金のうち、すべての国民年金被保険者が加入できる共通の制度であるiDeCoについて、仕組みや特徴を国民に周知し、試算額を「見える化」することで、iDeCoの利活用の際の参考にしてもらうことを目的とする。
- iDeCoの利用に至っていない方や十分に活用できていない方を主な対象として想定し、シミュレーターの試算機能を使うことにより、iDeCo利活用の具体的なイメージを持ってもらう。

（注）企業年金は、事業主ごとに設計等が異なることから、統一的に表示できるiDeCoについてまず対応することとする。

（参考）諸外国の例（就労不能給付の表示）

次期公的年金シミュレーターにおいては、障害年金の基本的な仕組みや特徴を分かりやすく国民に周知することが考えられる。具体的には、一定の支給要件を満たした場合、障害基礎年金（２級）については、保険料納付期間にかかわらず老齢基礎年金満額（４０年加入）と同額が支給されることや、障害厚生年金については、被保険者期間が３００月（２５年）未満でも３００月とみなして年金額が計算されること、障害が重い場合（１級）には年金額が１.２５倍になることなど、最低保障機能が強化されていることを理解しやすいように、ユーザー視点から簡素で見やすい設計にするものとし、専門家の助言・監修を踏まえ、画面設計を行う。

【デンマーク PensionInfoの就労不能給付の例】

The screenshot shows the PensionInfo website interface. The top navigation bar includes the logo, a welcome message, language options (Da | En), and a login button. Below the navigation bar are tabs for Overview, Pension, Illness and death (selected), Your plans, Access, and Get report. The main content area is titled 'Illness and death' and contains three sections: Death, Loss of ability to work, and Certain critical illnesses. The 'Loss of ability to work' section is highlighted with a red box and shows an annual payout of 451,000 DKK. The 'Certain critical illnesses' section shows a one-time payout of 500,000 DKK.

Category	Benefit Type	Amount (DKK)
Death	Once and for all	3,800,000
	Annually for some years	451,000
Loss of ability to work	Annually for some years	451,000
	Once and for all	500,000